

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム みらい
日付	平成17年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会 LIFE SUPPORT推進グループ
評価調査員	在宅介護経験8年
評価調査員	在宅介護経験16年
評価調査員	在宅介護経験8年
評価調査員	痴呆性高齢者建物施設設計15年、痴呆介
自主評価結果を見る	(まだリンク先は 護専門指導員 ありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)	

外部評価の結果

講評
<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>「自由に過ぎて頂きたい」「何でもありの暮らしにしたい」と願う、管理者・職員間での合言葉となっている。「友達と外に散歩に行く」「手芸を楽しむ」「他の利用者に世話をやく」「食事の準備をする」「洗濯物をたたむ」「リビングルームの掃除をする」「利用者同士で楽しそうにお喋りする」等利用者は思い思いに過している。このグループホームの理想が「利用者の生活リズムは大切に」「一人ひとりのその時の思いを尊重して」で、「こうでなければならぬ」と何事も決め付けずに、その場その場で臨機応変に対応する自由な雰囲気を作っている。</p> <p>「一人ひとりの持っている能力を生かして、それぞれの時間を大切にすることで、その人本来の優しさを取り戻すことが出来る」と信じています」は認知症ケアの最も大切な根幹とも言える。</p> <p>「心の鍵はかけません。だからこそ閉じ込める介護をしない為にも建物にも鍵をしません。代表者の強い思いが伝わってきた。「家族や地域の人にも自由に出入りして欲しい」という願いが、現実に行き届いている。</p> <p>利用者に「何かしてあげる」という姿勢より、「して貰う」「教えて貰う」という日常から、職員の口から自然に出る「ありがとう」の言葉は、来訪者を和ませてくれる。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>次のような提案をした</p> <p>グループホームを立ち上げて、未だ間もない状況の中で、試行錯誤をしながらも自信が加わってきた段階であるが、今後の発展の為に次の提案をする。</p> <p>職員間の日常的なコミュニケーション、悩み相談、認知症ケアの日常の手法、利用者の生活の場作り、定期的な会議のあり方、介護計画と実施記録方法等、沢山の日常の仕事を今以上に大切に考え、工夫して、課題の解決を一つ一つ重ねていって貰いたい。</p> <p>男性利用者も多いので、過去の経験や趣味など生かして、グループホームの中で役割を担って貰い、生活のリーダーとして活動するきっかけを工夫して欲しい。</p> <p>問題点や解決方法等は、ホームだけで頑張らないで、家族や地域の専門家等、利用者も含めて皆さんで考えていく努力をして欲しい。</p> <p>研修の積み重ねの他に、他のグループホームとの交流、情報交換の機会を増やして貰いたい。</p>

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>代表者がグループホーム「みらい」のホームページを丁度立ち上げているところだが、その内容に触れてみると「介護する者の苦勞、介護される側の辛さ、どちらもほんの少しでも軽減したい。それぞれが、その人らしく生きようお手伝いをしたい」「その人の心を大切に、一緒に育てていきたい」とある。代表者の義母が要介護者になったことを機に、社会貢献する楽しみを目的にして、このグループホームの運営を管理者や職員に託している。その気持を受け継いだ職員達は、マニュアルや予定よりも「その人が今思っている事を中心にした暮らし」を大切に実現しようと努力している。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>敷地も広く、菜園や花壇がある庭もゆったりと造られている。その中に明るく広々とした2階建ての建物が建ち、2つのユニットが1、2階に分かれて、利用者はゆったりとした気持ちで自由な生活を営んでいる。リビングルームも広々としてその一角に一段高い畳の間があり、その前にソファが置かれ、大きなテレビがある。利用者はそこで友達同士や一人で自分の好きな事をして過ごしていることが多い。</p> <p>居室もそれぞれが自分の部屋を作り上げ、思い出の写真や自分や家族の描いた油絵などの作品を掲げている。</p> <p>鍵をかけない開放的な場作りで、家族や友達、地域の人々が自由に出入りできる。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>「ホームのお母さん」になっている さんは昼食の寿司作りから洗い物、片付けまで台所に立ちっぱなしだ。小奇麗に野菜を刻む腕は若い職員よりはるかに上かも知れない。「上手ですね」と声掛けすると、謙遜もしながら自信に溢れた笑顔がある。親しく話してみると、「私は体だけは元気。でも一番悪いのはこの頭。おんなじ事ばかり言うから」と寂しそう。このホームで生き生きとした時間が持てる さんの幸せを支えているのは、職員の「あなたを本当に頼りにしていますよ」という見せ掛けでない「寄りかかり」だろうと思う。</p> <p>「このホームに入るまでの自分を思い出したくない」という感じの利用者が居ると言う。入居して日が浅いので心の中は千々に乱れ、あの顔の内側は多分複雑なものだろう。時が解決してくれる部分もあるだろうが、今以上に一人ひとりの生きてきた道のりを、また今の心の深い部分を知る努力をし、職員間で共有し、深層の所での信頼関係を築ける認知症ケアはどうあるべきかを見出して貰いたい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か</p> <p>若い管理者が大型施設の中ではやり得なかった「ひとりときちんと向き合う」姿勢のケアを目指そうとしている。これを支えているのは「代表者が管理者を全面的に信頼して任せていること」「職員がこの目標に賛同して協働していること」だと言う。職員間の歯車がうまく回る事がこのホームでケアの質の向上への最大のポイントと考え、今の歯車に油をさして貰って欲しい。管理者は全てを自分で抱え込もうとしないで、ある部分は任せたり頼りにするといった雰囲気のままの方が良いと思う。</p> <p>近所の開業医が親を入所させる。老人会のメンバーの入所でその仲間の訪問がよくある。隣のふれあいセンター利用者が顔を出す。下校途中の小学生がのぞく。ボランティアチームが歌や踊りで楽しませてくれる。勿論、家族や友達の訪問は多い。</p> <p>開所間がない今、このような日常が見られるのは珍しい事で、とても素晴らしい。今後何か問題が発生したとしても、今のホーム外の他の目が行き届いている中で、多くの人に相談しながら解決へ向けて努力していけば良い。</p>		